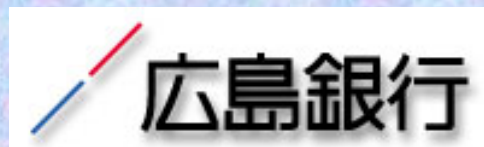


# 広島銀行における ＩＴの戦略的活用について

平成１９年３月２日



**Tomorrow's Bank Today**

---

はじめに

# 広島銀行の概要

(2006年9月末現在)

✧本店所在地 広島県広島市

✧預金量 5兆1,766億円

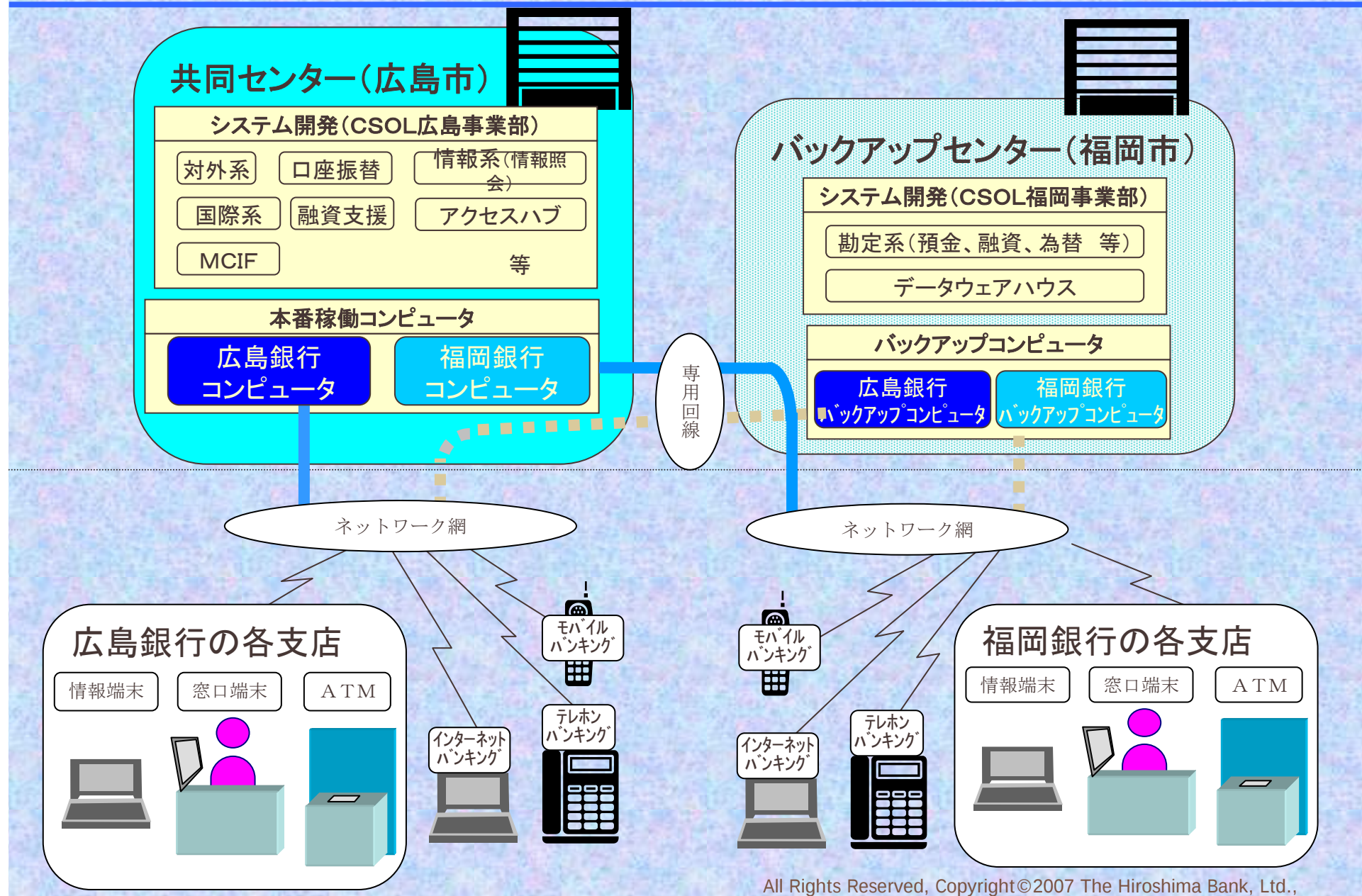
✧従業員数 3,074名

✧店舗数 国内本支店 145、出張所20、海外駐在員事務所1

(広島県135カ店、岡山県9カ店、愛媛県6カ店、山口県7カ店、など)

地域社会との強い信頼関係で結ばれた、頼りがいのある〈ひろぎん〉を構築する

# 広島銀行のシステムについて



# システムの現状

(2006年6月末現在)

| 項 目         |         | 内 容                          |
|-------------|---------|------------------------------|
| 端末等<br>設置状況 | 営業店端末   | 1,194台（他 照会専用PC 589台）        |
|             | A T M   | 830台                         |
|             | パソコン    | 3,237台                       |
| 処理量         | 営業店処理   | [平均] 151千件/日 [ピーク] 388千件/日   |
|             | A T M処理 | [平均] 221千件/日 [ピーク] 407千件/日   |
|             | センターカット | [平均] 391千件/日 [ピーク] 1,777千件/日 |

# 福岡銀行とのシステム共同化について

## 基本コンセプト

より良いシステムを早く安く

## システム共同化の狙い

- ☆お客様のニーズに応える新商品・新サービスを迅速に提供できる競争力のある基幹システムを早期に構築
- ☆システム関連経費の大幅な削減
- ☆共同化により生じる余力を、今後飛躍的に増大する新たなIT戦略に積極的に投資

# I Tの戦略的活用

# I Tの主な活用分野

## 顧客サービスの 利便性向上

- ☆利用チャネルの拡充  
(インターネット、電話、コンビニなど)
- ☆新商品の開発  
(新型定期・ローン、投資信託、国債、保険など)

## 行内業務の 高度化・効率化

- ☆データベースの活用  
(マーケティング、営業活動支援、情報分析など)
- ☆事務の本部集中化や各種精査の自動化

## リスク管理の 強化

- ☆信用リスク、市場リスク等におけるリスク量の把握と予測
- ☆情報漏えい対策
- ☆不正利用防止対策

# リスク管理体制

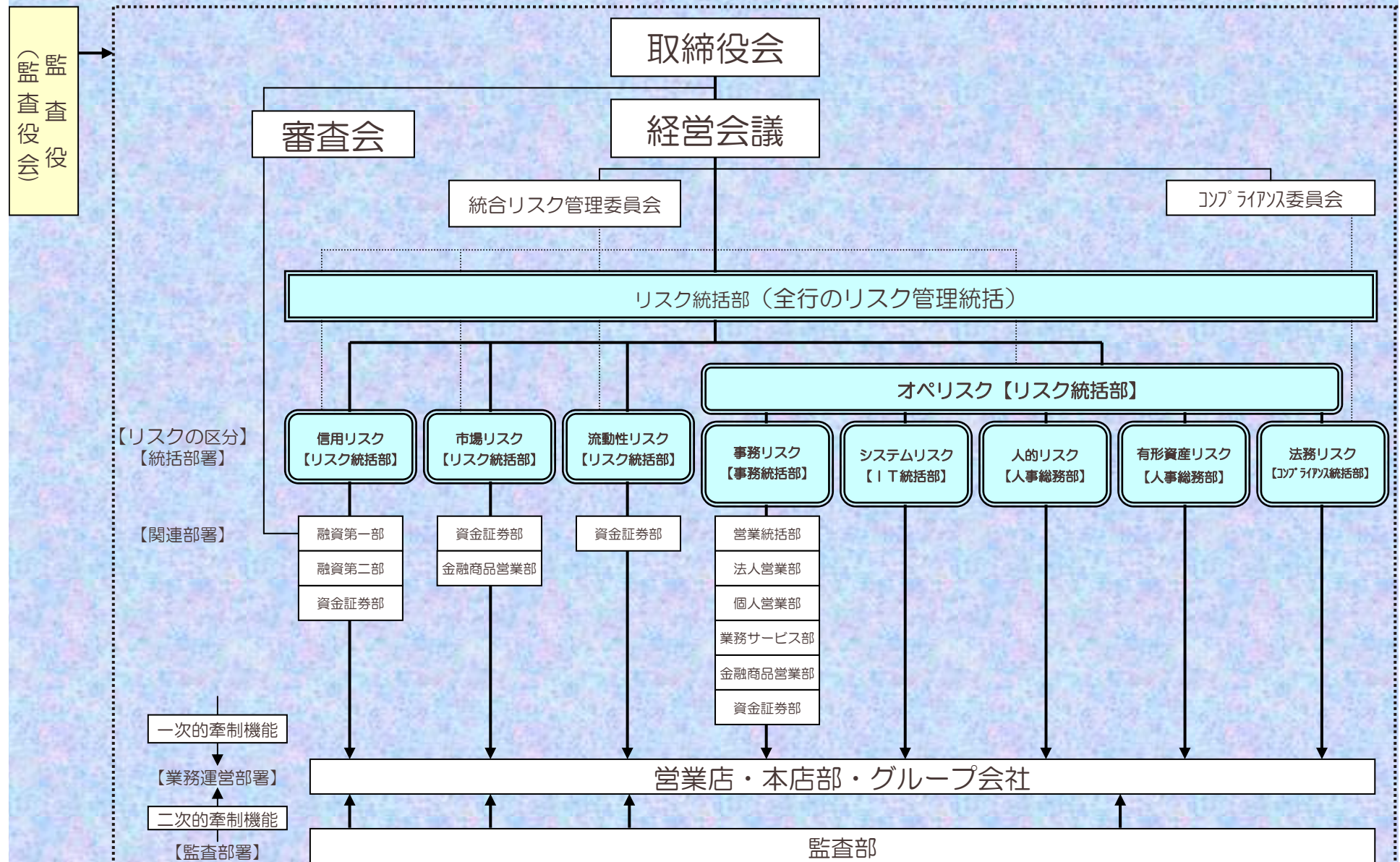
# リスク管理にかかる基本的な考え方

## 目 的

銀行が抱えるリスクが拡大・多様化するなかで  
当行自らが自己の責任において、種々のリスクを統合的に把握・分析し  
適切な管理・運営を行うことにより  
「経営の健全性維持」と「収益力の向上」の実現に資する

自己資本／リスク／収益のバランスのとれた  
健全で収益力の高い経営の実現

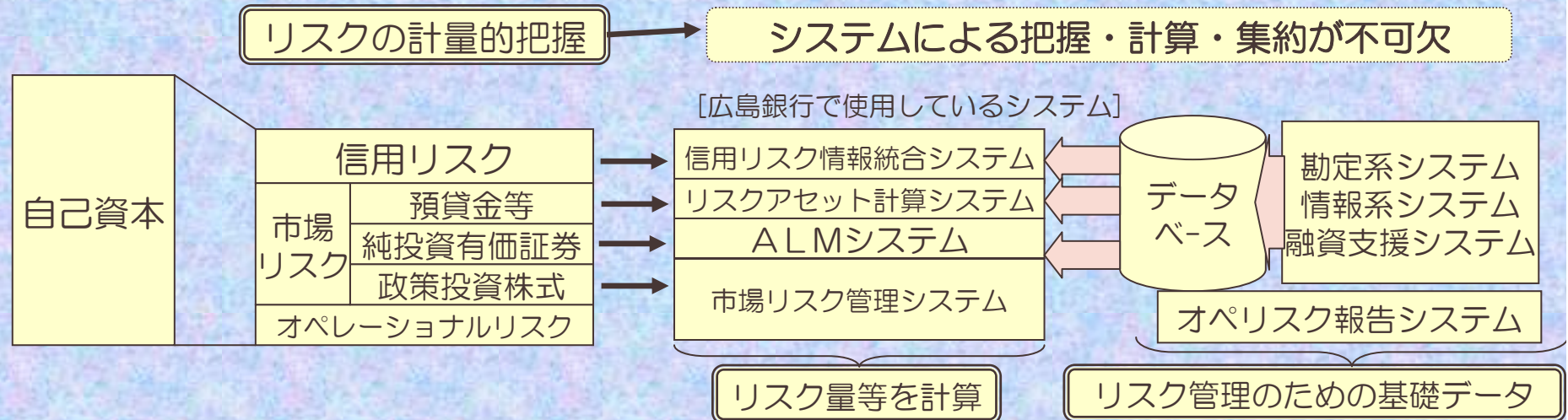
# リスク管理体制



# リスク管理におけるＩＴ活用事例

# リスク管理へのＩＴの活用

## ①統合リスク管理（経営体力の範囲内にリスクを抑制）



## ②リスク情報を営業活動等で活用

実務でのアクションをサポートする情報

| [信用リスク] (例) |      | 残高 | 格付 | 保全 | 収益 | リスク量 | リスク対リターン |      |
|-------------|------|----|----|----|----|------|----------|------|
|             | 〇〇商事 | 〇〇 | ○  | ○  | 〇〇 | 〇〇   | 〇〇       | 営業活動 |
|             | 〇〇産業 | 〇〇 | ○  | ○  | ○  | ○    | ○        |      |

| [市場リスク] (例) |      | 残高 | デルタ | ヘッジ | 収益 | リスク量 | リスク対リターン |      |
|-------------|------|----|-----|-----|----|------|----------|------|
|             | 外貨債券 | 〇〇 | ○   | ○   | 〇〇 | 〇〇   | 〇〇       | 投資行動 |
|             | 株式   | ○  | ○   | ○   | ○  | 〇〇   | 〇〇       |      |

| [オペリスク] (例) |           | 事務フロー | リスク事象 | 損失事例 | 損失発生要因 |      |
|-------------|-----------|-------|-------|------|--------|------|
|             | 流動性預金窓口入金 | ◇→△→■ | ○     | ○    | ○      | 業務遂行 |
|             | 投資信託解約    | △→◇→■ | ○     | 〇〇   | 〇〇     |      |

# 信用リスク管理の強化

## 融資支援システムの狙い

### 審査プロセスの スピードアップ

○融資事務に、  
ワークフローシステムを導入  
（業務プロセスのシステム管理）

○稟議書をはじめ、格付申請書  
や自己査定資料の搬送時間が  
無くなる。

### 融資業務の効率化

○パソコン上で、  
殆どの融資事務が可能

○案件受付段階から、  
決裁、実行、事後管理まで  
をシステム管理

○稟議書等の保管・管理の  
システム化

### 信用情報の データベース化推進

○情報の登録・管理  
（氏名等により検索/照会可能）

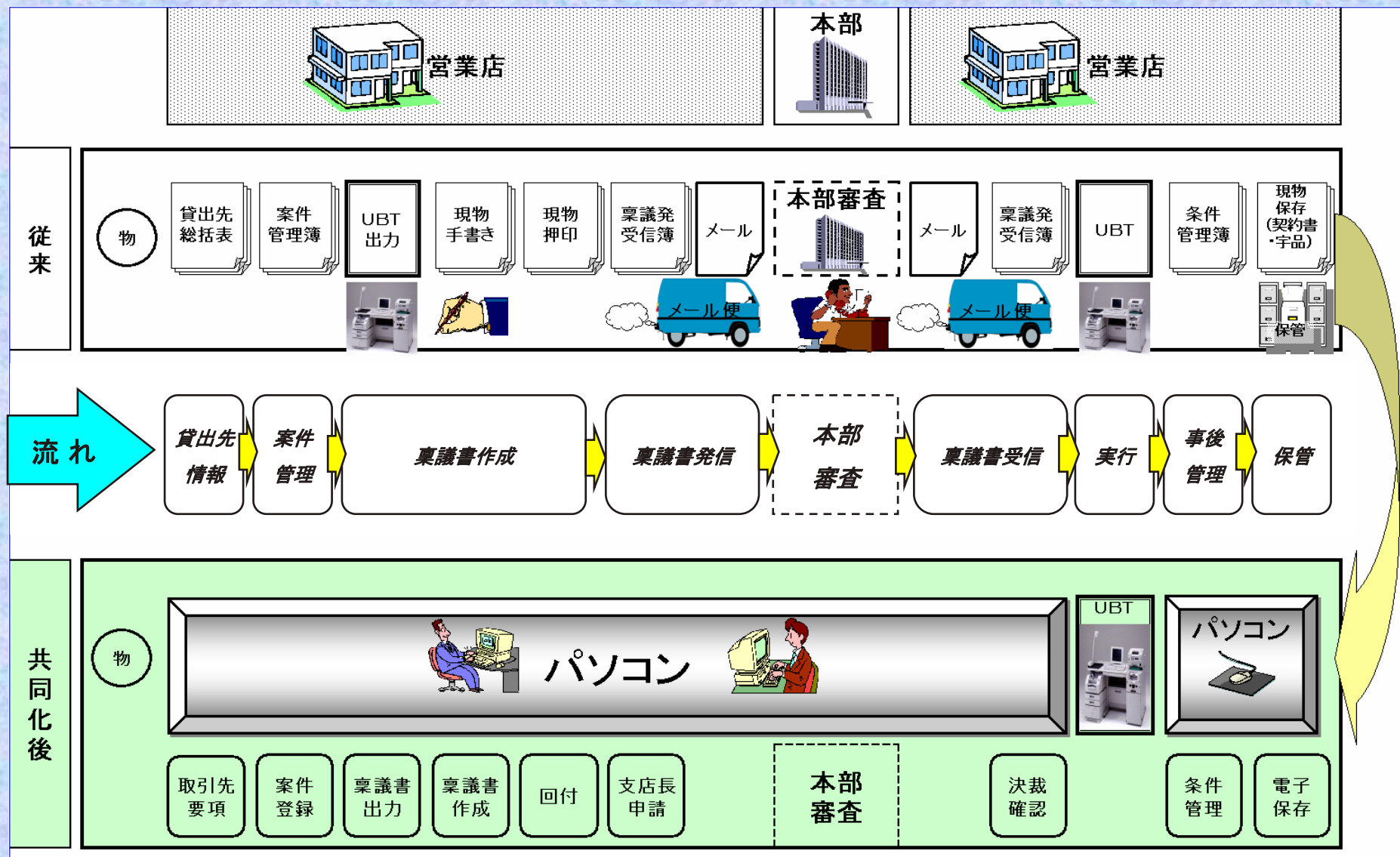
〔  
・取引先（債務者）情報  
・保証人情報  
・仕入先販売先情報  
・商手支払人情報  
〕

○帝国データバンクの情報（評点）や、  
株価・外部格付情報との  
データ連携

### 信用リスク管理 の強化

○格付・自己査定の業務統合

# 新旧の事務フロー



## 融資支援システムの概要

| No | システム名称                | 備 考                                     |
|----|-----------------------|-----------------------------------------|
| 1  | 融資統合データベース（データウェアハウス） | 融資業務情報を一元管理<br>（債務者属性/稟議/格付...をデータベース化） |
| 2  | 稟議支援システム              | 貸出稟議書の電子化・ワークフロー化<br>稟議書のシステム保管 等       |
| 3  | 取引先要項システム             | 債務者の基本情報を登録・管理<br>本部／営業店で照会できる          |
| 4  | 保証人管理システム             | 保証人情報のデータ登録・管理<br>氏名による照会可、保証履歴を蓄積      |
| 5  | 財務情報システム              | 財務情報をパソコンから照会                           |
| 6  | 担保管理システム              | 担保情報一元管理<br>有価証券価額を日々反映                 |
| 7  | 不動産担保管理システム           | 不動産担保管理システムと<br>データ連携                   |
| 8  | 格付自己査定システム            | 信用リスクに関する定量的・経常的<br>データを融資支援システムと連携     |
| 9  | デフォルト債権管理システム         | 実質破綻先以下の情報管理と<br>二次査定支援                 |

# 顧客情報管理

情報の流れを「入口」「保管」「出口」の切り口で分類⇒課題を抽出⇒  
情報管理強化に向けた具体的な「打ち手」の実施　～約60項目～

## ◆入口

- ・ピンパッド活用（「紙」による徴求書類の削減）

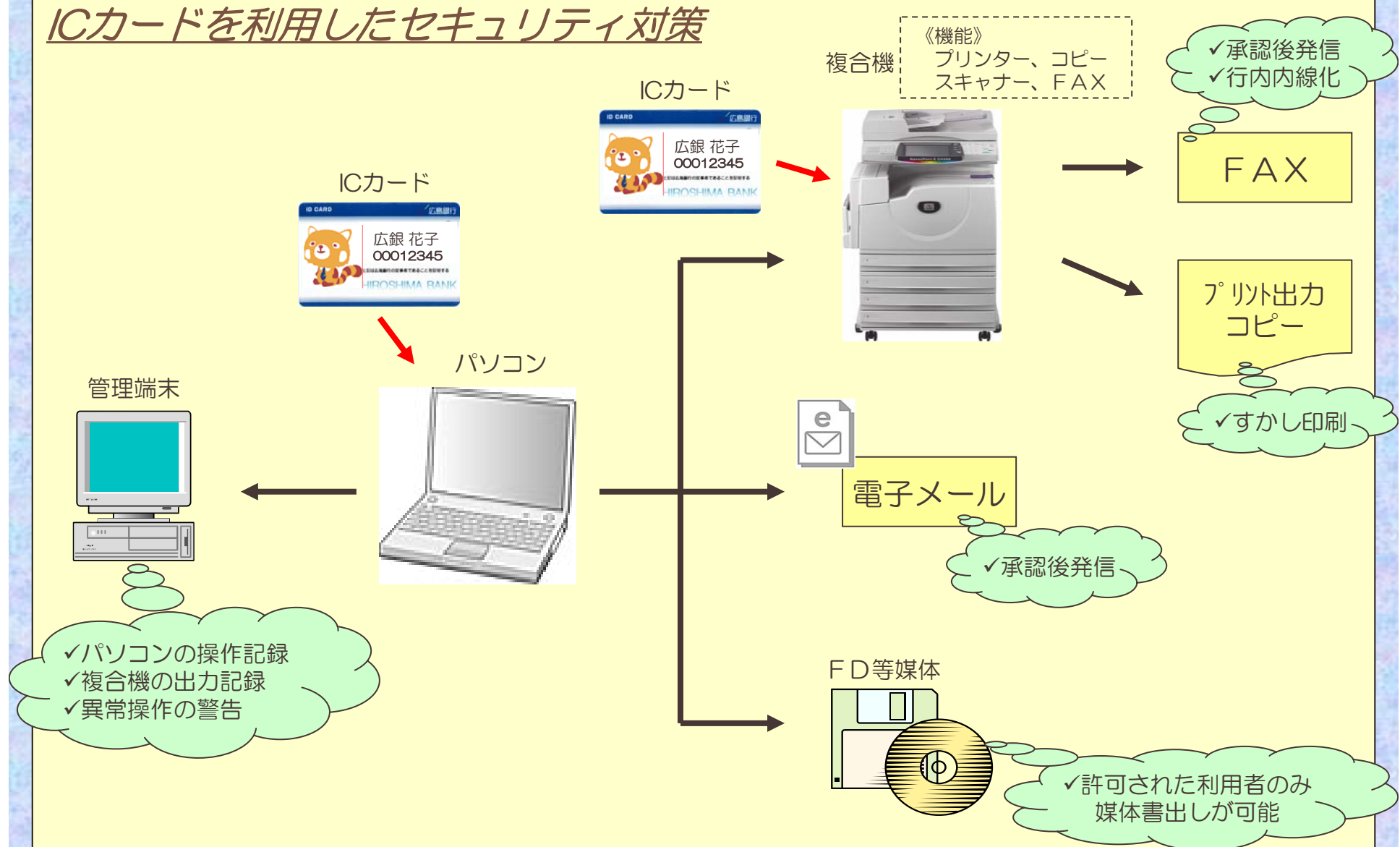
## ◆保管

- ・行内還元資料の電子化
- ・行内本人認証基盤として「ICカード」の採用（パソコン・複合機）
- ・パソコン：セキュリティソフトの導入、情報系メニューへのアクセス強化
- ・複合機　：すかし印刷、印刷記録の保管・分析

## ◆出口

- ・顧客宛郵送業務のアウトソーシング拡大
- ・FAX送信管理システムの導入
- ・電子メール送信管理システムの導入

## ICカードを利用したセキュリティ対策



---

ご静聴ありがとうございました。

